

事業名	代表者所属	広島大学 総合博物館
09KJ-017	代表者	助教 石川 菜央
瀬戸内海を対象にした企画展における科学体験事業の実施	開催地	広島県
	助成金額	10 万円
活動概要		
<p>日時: (1)2009年8月1日13時～15時 (2)8月8日11時～15時</p> <p>場所: (1)広島市子ども文化科学館 (2)宇品港</p> <p>対象: 小学生と保護者</p> <p>参加者(人):(1)54名 (2)161名</p> <p>内訳(小中高の先生; 10 人)(生徒; 205 人)</p> <p>内容: (1)親子で海の生き物のモビール作成 (2)広島大学の練習船「豊潮丸」の一般公開 講演; 0件、発表; 0件、シンポジウム; 0件</p>		



モビール作成会場の様子



モビールを作る親子



豊潮丸



観測機器の解説の様子

事業の目的・ねらい

広島大学総合博物館では、広島大学の瀬戸内海に関する研究を一般公開するために、企画展「豊かな里海・瀬戸内海ものがたり」を主催した。企画展の一環として、小中高生を対象とした科学体験・およびワークショップを実施した。世界有数の内海である瀬戸内海は、我々の生活に最も身近な「里海」である。人々は古くから、この海を舞台として様々な関わりを持って生活を展開していた。幸いにして、本学はこれまで、理学研究科、工学研究科、生物圏科学研究科、文学研究科などを核に多くの研究を有し、現在も多数の教員が研究に携わっている。そこで、このような成果を企画展の形でまとめ、広く社会に発信することで、瀬戸内海への理解を深めるだけでなく、広島大学の研究を社会に広く発信することを目的とした。特にこの度は、未来を担う子ども達をその主要なターゲットとした。

事業の概要

(1)親子で海の生き物のモビール作成

紙を切り抜いて海の生き物のモビールを作成するワークショップを行った。企画展の目玉展示となる「庄原クジラ」の化石にちなんで、クジラのモビール作りに取り組んだ。子供たちの創意工夫力を高めるとともに、海の生き物に関する関心を深めるのがねらいである。子どもを対象に全国でモビール作成を指導して活躍する講師に加え、学内の児童と触れ合うボランティアサークルの学生が指導に当たった。

(2)広島大学の練習船「豊潮丸」の一般公開

豊潮丸は、中国・四国・近畿地方では唯一の国立大学法人が所有する水産系練習船であり、最新鋭の装備を持つエコ・シップである。生物生産学部を中心に大学の海洋研究に活用されている。企画展会場近くの宇品港に豊潮丸を係留し、船内の見学会を行った。乗組員がブリッジや機関室で解説を行うほか、1日に2回、海底および海中の生き物を採取する調査体験を行った。

成果・効果

モビール作成では、親子で創意工夫してモビールを作ることで、海の生き物への理解や関心が深まった。また、ワークショップを企画展会場で行ったため、展示内容とモビールを関連づけることができ、瀬戸内海をより身近に感じ、海に対する理解を深め、環境を大切にしていこうとのメッセージを参加者にも発信できた。「豊潮丸」の一般公開では、普段は見ることのできない練習船の中を見学できることで、子どもたちは、広島大学での海洋研究を間近で体感することができた。船内の各所に船員が待機しており、子どもたちの質問に答えたり、船や調査に関する知識を伝授したりした。参加者にとっては、ただ見るだけの展示ではなく、実際に船に乗り、船内を歩き、船員と話することで、五感を駆使した体験となった。